

資料

開拓地と河川

正会員 橋 内 徳、自

1 開拓地と治水

平原果無き東の空に旭日を迎へ西さす地平線に赤き夕日を送る一望千里の滿洲原野に歩を印したるものは何人も滿洲の無限なる廣度に驚嘆の眼を見張るものであるが殊に北滿地方の荒野に立ち、この偉大なる自然に接する時その感を一入深くするものである。

而してこの廣衍なる原野の大部分が雜草の叢生に任せ、到る處の低窪地は單に葦葦の寄生に放任せらるゝ現状を見る時これ亦何人も直ちに滿洲には未だ無盡の開拓地を控へ幾百萬の開拓民入植を可能ならしめるものありと獨り早合點をなし、開拓政策の運々として進歩せざることの云々するを驚くるものである。

然し此等未墾地の地柄を委細に検討して見ると總て累年洪水被害に災せられて荒蕪地と化せるもの、或は排水不良のため低窪地として放置せられるゝもの、或は「アルカリ度」高き鹽土に素因せられ不毛地として頗れざるもの、又は偏乾性氣候に支配せられて砂漠的瘠地と化せるために未利用地として放任せらるゝもののみであつて、何等の人工を加へず直に農耕地として利用することの出来る適地は極めて稀なのである。

加ふるに開拓地は開拓地としての各種立地條件が伴はねばならぬし且開拓民の部分にも亦北方據點確保の見地より單純的に分散築屯をなさねばならぬ等の條件が加付せらるるに於ては、さなきだに適地の少なき上にこれ等の諸要件の達成が満足せらるるか如き開拓地は甚だ稀有にして、今日迄の開拓民には漸く満額大の土地を見出しそ入植せしめたる情勢よりも推察せらるることゝ思ふ。

然らば日滿兩國に通る開拓政策遂行上重要なきを期するためには、開拓地の取得を如何に處理すべきやの問題

が懸る。これは開拓地の造成を計る以外には何等の益もない。一般に滿洲に於ける河川に沿ふ廣漠たる地域は殆んど起伏なき平坦地なれば、一度河水が氾濫するや渦水は沿々として堤岸なき迄に瀕瀕し凡ゆる地上の萬物を水没せしめ然も渦水期間數旬を越へ、漫々的に減水するが如き有様を呈し農民は三年一饑の農收穫を余儀なくせしめられつゝある實状にあるのである。

されば開拓地の造成には先づ累年雨季及び解冰期毎に異例なしに惹起する洪水氾濫を芟除し農耕地の確保を計る治水施設を施すのが根本策と信ず。

即ち河川に沿ひ防水堤を築造して洪水の氾濫を防ぎ、河道を矯正して洪水の快適を計り且縮林を施して流砂の抑止に資し更に境内地（築堤により圍まれたる土地）に導渠を開削して悪水の排除に努むる時は、無毛の原野も立派に開拓棄地として蘇生せしむることが出来るのである。

2 開拓地と利水

斯くて造成せられし開拓棄地は開拓民が生活並に營農上、水田經營を主とする形態に開墾せらるのであるが、これには第一に用水の確保が先決問題として課せらるる。用水は總て河水より引用せられ、河水量は河川流域の面積、地勢、地質、林相、雨量、蒸發並に河床等によりて支配せられ、途中流域内の降雨量に最も密接なる關係を有することは実証の事實である。

然るに滿洲に於ける降雨狀況を觀察して見るに、特異性ある氣象現象に支配せられて、七、八月の所謂雨期には年雨量の70%以上も降雨し残りの約10ヶ月は概ね乾旱期に屬するために、河川流量は洪水と渦水の兩極端に偏倚し、雨多ければ忽ち境内の悪水排除に困難を來し雨少な

ければ即ち用水の取得に苦難すると云ふ實に水田經營上自然の環境に恵まれざる實情にあるのである。

茲に於て自然の輪迴に順應し寧ろ自然を利用し、河水收得を計り以て合理的なる利水計畫に従ふが如き施設を設くるのが第二の根本施策となるべきと思考す。

即ち河川の適當なる地點に堰堤を築設して、有害なる洪水を貯留し有効なる河水と化し、これを、最も効率的に利用し最も合理的に配分をなすが如き場合には水田經營は常に最も有利な然も確實なる企業となすを得るのみならず、更に堰堤内に貯留せし灌溉用水の余剩量をもつて電化に充低廉なる電力を豊富に供給して、農産物の多量生産にもつて電化に資し開拓營農をして益安固たらしむるものなりと信じて止まぬのである。

尙この事例を簡単に説述せんに、五月下旬より『アルカリ』耕土の除鹽のため、又六月中旬より稻苗植付のために相等量の用水を必要としこれには解氷期の高水を捕捉貯留して必要限度だけ供給し七、八月の雨期迄堤内に夏期の洪水を調節貯留し得る程に放流する。

斯くせば解氷期及び雨期に惹起すべき洪水の調節を充分計り得るのみならず高底の用水源に充て得るので營農上些少の不安も與へぬことになる。然も九月初旬に至れば水田には用水を輸送する必要が無くなる結果貯留水の全量は耕土で酸素のため能動せしむることが出來營農上其の効果も顯著なるものありと思料す。

既近内鮮開拓民の入植に伴ひ水田經營満豐間にも盛に行はるやうになり、これが用水收得のため内鮮開拓民相互間に成る原住漢人と開拓民との間に紛争が起りつゝあるやに仄聞するが、これでは五族協和も開拓民の満農指導も實の無きことにして誠に悲しまるべき事實と云はざるべからず、畢竟この因は用水源たる河水量の季節的偏在のためにして、此等競争を斷ち彼等に開拓民としての態度を與へ樂土たるの觀念を抱持せしめ且禮節を知らしむるためにも開拓地の造成と共に用水源の確保は最も緊要事にして實に開拓立地上の最大條件となるものなりと斷定して譲らざるものである。

3 結　　び

内地では恐怖の對象物の喻へに「地震、雷、火事、親爺」と言ひ處はされて居るが滿洲に於ては、この對象物の第一に河川を指し從つて到る所に水神廟が建立せられ迷信的迄に恐怖して居るそれは叙上の如く河川が沉水と渴水の兩極端に偏倚し、雨多ければ忽ち水驕に脅され雨少ければ即ち渴水に苦しむと言ふ河泊の意の愁する體に翻弄等せられて居る實情の結果に外ならず。

されば開拓と河川との關係も、この二つの馳背した事のために相當の脅威が與へられ、これの解決が即ち開拓問題の明瞭なる解決となるものなりと信じて疑はず。

近時政府に於ても水の處理問題は國土の保全、開拓利用等の綜合立地的觀點よりも總ての國土計畫の一基盤をなし建設の先駆をなすものなりと考へ、漸くこの方面に意を盡し徒に河川を恐れず寧ろ天與の資源としての河川の利用開拓をなすが如く指向して居ることは喜しきことである。

今や東亞共榮圖の確立日に月に進展し北人南物の指導觀念が明瞭に指向せる大和民族の適正部分によりて、北方據點の藩守亦新に重大性を加ふるの秋日本開拓民の誘掖を促し、開拓農村の振興には開拓民の生活安定向上を期する以外に策は無く其の具體的方法として農作物の多量生産、生産原價の低廉、災害防止等が擧げらるゝ。

農産物の多量生産と生産原價の低廉を期する上には一般に水利排水の改善と水利費の輕減と農業の科學化を必要とする。水利排水の改善と水利費の輕減には河水統制の實施に俟たねばならぬし、又農業科學化には動力を要し、この動力には主として電力に仰くことが多い。災害の防止は治、水治山による處大なるは云ふまでもない。

即ち開拓農村の安固と振興を圖らんには先づ治水及び利水の工を離れて企圖することは至難の業にして從つて開拓地と河川との因果關係は他の關節事項に比し最も重し。

やがてこの意圖が漸次具現せられ各河川が河水統制的見地より改修せられる時こそ、開拓の天地が開け開拓民をしてその處を得しめ、其の分に安せしむるものであると思ふのである。